

市民活動の年間プログラム

日野川に砂礫河原をとりもどす会

日野川に砂礫河原をとりもどす会は、日野川流域交流会の活動プロジェクトです。日野川流域交流会は1994年に誕生した流域活動のネットワーク連絡会です。2000年、日野川の中流、石田橋床止め工で、サクラマスが回帰して立ち止まっているという現実から、10年かけて源流まで遡上させようという痛

快な「サクラマスの駅伝」プロジェクトが始まりました。流域共働の活動は徐々にその成果が出てきました。石田橋の魚道が改良されてから、次々と上流の魚道が整備されて行きました。来年度、



家族で川流れやボート体験、水辺の生き物を学習した。

念願の心臓破りの魚道と言われる松ヶ鼻頭首工の魚道改修が着工されることとなりました。間もなくサクラマスは上流産卵場を目指して遡ぼって来るでしょう。ところが、河道内は細粒土が厚く堆積して樹木が茂り、砂礫河原と連続した瀬や淵が急激に減少しました。そのため、水際は人が近づけない環境になってしまいました。砂礫河原と水際環境、および生物移動の連続性等



幼児用に、プールに川の水を張って魚と遊んだ。

の保全と再生をして行こうと次のプロジェクト「日野川に砂礫河原をとりもどす会」を立ち上げました。年間プログラムは、2月に活動について意見交換会、5月には日野川の現状を見学しながらの現場での意見交換をする「バスツアー」を行います。そして7～8月に「市民の河原イベント」9月にその「報告会と出前講



河原でアユの手づかみ漁を楽しむ市民。

座」を開催しています。7月31日に開催した第3回市民の河原イベント「そうだ！川に行こう」には2000人が集まり、親子で川ガキを楽しみました。色とりどりの家族テント群が、賑わいを一層創出しました。

日野川に砂礫河原をとりもどす会

田中保士

※ 川ガキ：夏が来ると、川で遊ぶ元気な子どもたちのことをそう呼んでいます。